

(別記様式)

令和7年度 府立舞鶴支援学校行永分校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（ 計画段階 ・ **実施段階** ）

学校経営方針（中期経営目標）	令和7年度 学校経営の重点（短期経営目標）	令和7年度 学校経営計画 成果と課題
<p>教育目標「よく学び、より鍛え、そしてよりよく挑む」児童生徒の育成を達成するため、特別支援教育を通して、学習指導要領や学校教育の重点に基づき、指導及び実践に努める。</p> <p>1 特別支援教育の推進</p> <p>(1) 個別の教育支援計画の活用を図り、一人一人のニーズに応じた指導・支援を推進する。</p> <p>(2) 医療・関係機関との連携を図るとともに専門性の向上に努める。</p> <p>(3) 言語活動、コミュニケーション能力の育成及びキャリア教育の充実により、自立と社会参加を目指す。</p> <p>2 学力の充実</p> <p>個別の指導計画に基づき、具体的な指導目標や指導内容を明確化し、基礎・基本を重視する授業の創意工夫に努める。</p> <p>3 心身の育成</p> <p>(1) 心身の状態を的確に把握し、家庭や医療と密接に連携を図り、計画的・効果的な自立活動や教科指導の充実に努める。</p> <p>(2) 基本的な生活習慣を確立させるとともに、命を大切にす心、相手を思いやる心等、豊かな人間性を育む心の教育を推進する。</p>	<p>1 健康管理や感染対策等、医療機関との緊密な連携・協働のもと児童生徒の安心・安全な学習環境の確保に一層努める。</p> <p>2 地域などの小学校・中学校との交流も含め、交流及び共同学習、更に児童生徒の実態に応じ、居住地校交流、外部の人的資源の活用、「部門間」交流を一層拡充させ、児童生徒の社会的自立を促す。</p> <p>3 児童生徒の様々な学習場面をホームページに適宜掲載するなど、積極的な情報発信に努め、教育活動の理解の促進を図るとともに地域との連携を密にして、「地域に開かれた学校」づくりを図る。</p> <p>4 ICT機器やデジタルアプリなどのソフトウェアの活用を進め、児童生徒にとっての最善の学びとなるように創意工夫を図る。</p> <p>5 個別最適な学びの一層の深化を図り、児童生徒の実態に応じた適切な教育課程を編成し一人一人を伸ばす授業づくり、授業改善等に努める。</p>	<p>1 隣接する医療機関と日常的に連携・協働することで、安心・安全な学習環境を確保することができた。医療機関の医師や看護師等から研修を受ける機会なども設けたことで、専門性の向上につながった。 今後、医療的ケアについての研修も進めていく必要がある。</p> <p>2 地域の小学校との交流では、綿密な打ち合わせをすることで、自然な関わりがもてる活動ができた。交流回数は例年よりも増えた。また、地域の人的資源との関わりを広げるために、様々な事業所へ積極的に訪問し、交流することができた。</p> <p>3 日々の教育活動をホームページに掲載し、インスタグラムを開設することで、更なる情報発信にも努めた。保護者や地域、報道機関等と連携を図ることで、教育活動の理解促進を図った。</p> <p>4 タブレット端末のコミュニケーションアプリを活用することで、積極的なコミュニケーションを図ることができた。医療センターに入院している児童の社会見学として、前籍校の社会見学にタブレット端末を持参し、病室とのオンライン中継をすることで社会見学に参加することができた。</p> <p>5 様々な実態の転入生に合わせて、適切な教育課程を編成することができた。また、体調に合わせて、臨機応変に「訪問」による指導を行い、個別最適な学びを深めることができた。</p>

評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
組織運営	1 児童生徒の社会的自立を促し、児童生徒、保護者、地域から信頼され、地域とつながる学校運営の推進	(1) 地域などの小学校・中学校との交流及び共同学習に加えて、児童生徒の実態に応じた居住地校交流や外部の人的資源を活用し学校行事等の教育活動を充実させる。	A	B	B	地域とより充実した交流をしたり、外部人材の活用を進めたりするため、連絡調整や渉外活動をした。
		(2) 各種会議を充実させ、分掌間及び教職員間の連携を図り、児童生徒の一層の実態把握に努めるとともに学習環境の整備を図る。	B			「働き方改革」の観点から、会議や連絡会等について、今後もその開催方法等(回数や参加者等)について検討していく必要がある。
		(3) 児童生徒にとっての個別最適な学びの一層の深化につながるような職場環境の整備に努める。	B			リフトの使用頻度が少ない状況にあるので、今後腰痛予防啓発等を行うなどして、使用を促していく。 予算の都合上、あらかじめ必要な物品をそろえることが困難だった。
	2 舞鶴こども療育センター、舞鶴医療センター、保護者、前籍校、関係機関等との連携	(1) 健康管理や感染対策等を講じながら、医療機関との緊密な連携・協働のもと児童生徒の安心・安全な学習環境の確保に努める。	A	A		校舎の出入口前にチェーンを掛けたり、注意看板を設けたりして、安心・安全な環境確保ができた。
(2) 参観日や懇談会、学校行事、PTA行事などを活用して、対面に加え、オンライン機器なども活用し、関係機関との連携を図る。		A			様々なメディアを通じて、保護者だけでなく地域等に、学習状況や児童生徒の様子などを発信できた。	
事務部	1 児童生徒の深い学びの実現に向けた支援	(1) 学校施設の維持管理及び学校環境の整備を行い、安心・安全な環境づくりに努める。	B	B	B	学校施設の修繕・更新を行い、学習環境の向上に努めた。
		(2) 教材教具の新規購入や更新を行い、学習環境の維持向上に努める。	B			計画的な予算の執行を行い、今後必要な物品の見通しを立てた。
小学部 中学部	1 健康なからだづくりと生命維持力の育成	(1) 関係分掌との連携を深め、支援方法を工夫したり、支援機器等を活用したりして、安全と健康に留意し、教育活動を進める。	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の実態に応じて個別・集団の学習活動を工夫し、体験的な活動を通して興味や意欲を高めることができた。 ・自立活動担当や養護教諭、保健部等と連携し、健康や障害の状態について共通理解を図りながら取組を進めた。 ・リハビリ担当の意見も参考にしつつ、リフトの活用や支援方法・支援機器について担任間で検討・実践することができた。

	(2) 医療機関及び関係機関との連携を密にし、心身の状態に応じた教育活動を充実させる。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・指導連絡会や朝の医療連携を継続し、病状や体調に応じた教材・教具や学習内容を設定することができた。 ・リハビリ担当や療育センターの医師・看護師等と日常的に情報共有や相談を行い、具体的な助言を指導に生かした。 ・訪問学習においても関係機関と連携し、個々の実態や体調に応じた教育活動を充実させることができた。
2 主体的に学ぶ力の育成と個別最適な学びによる基礎学力の向上	(1) 創意工夫のある教育課程を編成し、教科の視点を踏まえて、個に応じた取組や指導を行う。	A B	<ul style="list-style-type: none"> ・教科担任制のもと、担任と連携しながら個に応じた学習指導を行った。 ・各教科等合わせた指導の中でも教科の視点を意識し、同一題材であっても実態に応じた指導を工夫した。
	(2) キャリア教育の視点からの実践により、キャリアパスポートを活用し、将来を展望する力を育成する。(小学部)	B	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリアパスポートの作成に取り組み、自分自身について振り返ることができた。 今年度初めての取組であったため、今後は年度末に学習のまとめを行うなど活用を充実させたい。 ・校外学習を計画し、一部実施することができた。
	(3) キャリア教育の視点に基づいて、希望進路実現に向けてキャリアパスポートを活用しながら、指導を進める。(中学部)	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒と一緒に活動を振り返りながら写真を選び、作成することができた。
	(4) ICT機器等の活用を進め、児童生徒の主体性を引き出し、個別最適な学びにつながる授業づくりを進める。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器やタブレット端末を活用し、動画視聴やリモート学習など状況に応じた個別最適な学びを進めることができた。 ・訪問学習や交流校・病棟の児童との交流においてもリモートを活用し、つながりを広げることができた。 ・コミュニケーションアプリの活用やリモートによる校外学習を通して、学びや交流の手段を拡充することができた。

	3 他者への思いやりや自らの考えを伝える力の育成	(1) 全ての教育活動を通して道徳性を養い、自他共に思いやる力を育成する。	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な活動の中で友達を思いやる言動や主体的な応援・言葉掛けが見られ、道徳性の育ちがうかがえた。 ・一人ひとりの表出を丁寧に受け止めながら、友達や高学年としての意識がもてるよう言葉掛けを行った。 ・不適切な場面については適切に指導し、よりよい関わり方を育てるよう努めた。
		(2) 交流校や居住地校、部門や学部を越えた交流及び共同学習や様々な活動を通して、学校内外の人とのコミュニケーション能力を育成する。	A		<ul style="list-style-type: none"> ・学校内外の人との共同・交流学习において、自己紹介や学習発表などを通して力を発揮することができた。 ・居住地校や近隣校との交流、地域の学校訪問など、直接関わる機会を通して豊かな交流を行った。 ・舞鶴市長や地域で働く人々との交流や中学校との交流会を実施し、学校外の方々とのコミュニケーションを深めることができた。
		(3) 校外学習等での公共施設の利用等により、児童生徒の豊かな体験活動を通して社会性を養う。	A		<ul style="list-style-type: none"> ・病弱部門の児童も含め、校外学習や遠足、地域施設の利用などを計画・実施し、体験を積むことができた。 ・感染症の流行により十分に実施できないこともあったが、年度当初から取組を進めることができた。 ・地域を巡る取材や新聞作成を通して地域を学びの場とし、主体性や社会性を育むことができた。
教務部	1 学習指導要領に基づいた、児童生徒の教育的ニーズに応じた教育課程の編成・実施	(1) 指導目標や指導内容の明確化を促し、適切な個別の指導計画の作成・実施を図る。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の指導計画の書式を整え、学習指導要領を意識しながら目標設定や日々の指導が実施できるようにした。 ・日々の教育活動の中で各教科等のねらいや個々の自立活動のねらいを明確にし
		(2) 研究部や関係機関と連携し、個々の教育的ニーズと自立活動の内容との関連性を明確にした指導の構築を図る。	B		

		(3) 上記内容達成に向けて、計画的に研修を計画したり、情報提供したりする。	A			た指導ができるよう、必要に応じて研修や情報提供を行った。
	2 学習環境の整備・充実と校務の円滑化	(1) 教室や教材等の整理整頓を行う。	A	B		・各学期末を中心に教材庫や保管場所の整理整頓を行った。
		(2) 部内の業務内容を整理し、校務の円滑化を図る。	B			・重度重複学級の教科書採択業務に関わり、行永分校版一般図書選定一覧表を作成した。
		(3) 校務システム等、業務の効率化に向けた取組を進める。	B			・校務システム導入に向け、他校の状況等情報収集を行い、部内で共有を図った。
生徒指導部	1 基本的な生活習慣の形成・確立	(1) 各学級の実践を基盤にして、友達や役割を意識した集団活動を進める。	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・全校集会では、レクリエーションや誕生日のお祝い、学習発表等を通して学級を越えた交流の場を設定することができた。 ・交通安全指導では、舞鶴警察署の職員に來校いただき、基本的な交通ルールについて児童生徒に合わせた指導を行うことができた。 ・いじめや問題行動等についての事象は今年度も確認されなかった。引き続き児童生徒への丁寧な働きかけを通して実態を把握しながら、問題等への未然防止に努める。
		(2) 社会的なルールを守り、安全に留意し、よりよい生活を目指す力を育む。	A			
	2 児童生徒の個性の発見とよさや可能性の伸長、仲間づくり及び人権意識の高揚	(1) 両部門のねらいを踏まえつつ、児童生徒の交流を深め、互いを尊重する心を育む。	A	A		
		(2) いじめ、問題行動等の未然防止及び、早期発見に努め、児童生徒の特性等に応じた指導を行い、速やかな対応・解決に努める。	A			
進路指導部	1 保護者、関係機関等との連携と、組織的・計画的・継続的な進路指導の推進	(1) 卒業後の教育と、生活や保障についての研修をすすめる。	A	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ・夏季休業中にPTA共催で施設見学研修（花ノ木医療福祉センター、グループホーム、丹波支援学校亀岡分校）を実施した。参加された保護者からの質問や感想も多数聞くことができ、今後の進路指導に生かす内容となった。 ・状況に応じて、学校だよりで進路に関する情報を発信・提供した。
		(2) 進路に関する情報の収集と、発信・提供を行う。	A			

		(3) 保護者・関係機関等との連携を図り、児童生徒の状況と課題を共通理解して日々の支援・指導を行う。	A			<ul style="list-style-type: none"> ・舞鶴こども療育センターとの進路連絡会（今年度は小5、中2、中3対象）を実施し、進路に関して共通理解を図ることができた。 ・進路調査として、担任が保護者との個別懇談会や話の中で、進路に関して聞き取ったことや話題になったこと等を記録し、個々のニーズをおおよそ把握することができた。 ・「進路指導計画作成のための課題表」を活用し、『集団や社会への参加く人と付き合う力』として福祉施設（みのりvillage）との交流を実施し、校外の人との関わりを体験した。 ・引き続き「進路指導計画の作成のための課題表」や「キャリア・パスポート」をどう活用するか、検討を進める。 ・さらに個々のニーズに応じた進路に関する情報の発信・提供や取組を進める。 ・担任と連携し、児童生徒への指導内容や取組について具体的に検討し、進める。
	2 進路を主体的に切り開く能力や態度の育成に向けた取組の推進	(1) 個々に応じた進路実現に向けた取組をすすめる。	B	B		
		(2) 「進路指導計画作成のための課題表」や「進路指導計画」「キャリア・パスポート」を活用し、小学部から中学部を見通した指導を行う。	B			
保健部	1 健康なところと身体をつくる取組の推進	(1) 医療との連携を密にし、健康状況や病状を的確に把握する。	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・医療と連携し、日々の健康状況や病状について連絡を取り合い、児童生徒の体調や様子を把握することができた。 ・月毎の保健目標に合わせた掲示を行い、図った。また、養護教諭により各学級で必要に応じた保健指導を行った。 ・検診時には、事前指導や元気玉の取組を行い、スムーズに受けることができた。T1グランプリの取組にも意欲的に取り組むことができた。
		(2) 基本的な生活習慣を身につける保健指導を進める。	A			
		(3) 児童生徒が健康に関する基礎的な知識を、身に付け、病気を回復・改善できる力を育てる。	B			

	2 元気で安全な楽しい学校生活の推進	(1) 安全な学校生活を送ることができる環境をつくる。	B	A		<ul style="list-style-type: none"> 安全点検を実施し（年間3回の内2回終了）、環境を整え安全な生活を送れるよう取り組んだ。環境衛生検査も計画的に行った。 「心肺蘇生法研修会」「感染予防研修会」「整形外科研修会」を計画実施し、教職員の意識高揚を図ることができた。「動物ふれあい学習」も実施した。
		(2) 健康安全、医療的ケア等の研修を行い、教職員の意識高揚を図る。	A			
研究部	1 児童生徒の実態や課題に応じた授業を実施するための研究の推進 研究テーマ：「一人ひとりの教育的ニーズや障害特性を踏まえた自立活動の充実」	(1) 児童生徒一人ひとりの実態把握を行い、指導目標や内容を明確にし、自立活動の指導の工夫や改善を行う。(研究)	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 全校児童生徒分の「自立活動シート」を作成し、昨年度以上に児童生徒一人一人の実態を客観的かつ的確に把握することに努めた。シートを通して、指導目標や内容の具体化につながった。また、教員間での共通理解が進み、自立活動の視点を意識した指導の工夫や改善が見られた。 個別の指導計画と自活シートとの兼ね合いや作成について整理の必要性を感じた。 自立活動シートに基づき、PT・ST・OTなどの医療職と連携を図ることができた。特に重度重複部門においては、各学級でリハビリ相談や見学を実施し、児童生徒の実態に応じた支援の在り方を共有することができた。これにより、医療的視点を取り入れた「個別最適な学び」の実現に向けた取り組みが一層深まった。 自立活動シート作成に向けた研修会、児童生徒の実態交流会、夏季研修報告会、特総研研修報告会を実施した。これらの研修を通して、教員が自立活動の内容や視点について理解を深め、児
		(2) 行永版流れ図「自立活動シート」を児童生徒全員分作成し、そのシートに基づき医療職（PT・ST・OT）とも連携し、「個別最適な学び」を更に深める。	A			
	2 教職員の専門性向上のための研修の推進	(1) 研究テーマに即した研修会や、授業改善と専門性の向上のための研修会を行う。(研修)	A	A		

		(2) 研究部たよりを定期的に発行し、教員一人ひとりが研鑽と修養を励むことのできるよう情報提供を行う。(研修)	A		<p>児童の実態を多面的に捉える力を養うことができた。また、他学級・他学部・他部門との情報交換を通じて、実践の幅を広げる機会にもなった。</p> <ul style="list-style-type: none"> 公開授業を通して、指導案の作成において共通理解や表現の工夫を確認する時間が必要であると感じた。 研究部たよりを年間6回発行できた。(発行予定含む)
情報広報部	1 ICT機器およびソフトウェアの活用推進	(1) ICT機器及び校内LANの保守管理を行い、効率的な利用環境を保つ。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 転出入に伴うタブレット端末配備を迅速に行うことができた。また、タブレット端末保管庫の整理を行い、使用や管理のしやすい環境を作ることができた。 タブレットスタンドを増台し、リモート学習等で活用できた。 ICT機器の保守管理や効率の良い使用のため、貸出簿の利用をさらに推進させる。 1学期に、新任の職員対象の情報ミニ研修を実施することができた。 情報フェスでは、日々のICT活用事例の交流や、アプリの紹介、ワークショップ等を行い、ICTを“知る・使う・楽しむ”ことができた。 要望に応じて迅速にアプリの配信作業を行った。
		(2) ICT機器及びソフトウェア活用に関する研修及び交流の実施やサポートを行い、ICT機器の利用を促進する。	A		
		(3) セキュリティ対策の啓発を行い、個人情報の保護に努める。	B		
	2 ホームページからの情報発信の推進	(1) ホームページの保守管理を行い、円滑に運営、閲覧できるようにする。	A		
		(2) ホームページの作成や更新をタイムリーに行い、内容を充実させる。	A		

学校関係者 評価委員会 による評価	<ul style="list-style-type: none">・インスタグラム等による情報発信は、保護者に大変好評である。・キャリアパスポートが作成されるようになったことは大変意義のあることである。
次年度に向けた改善の 方向性	<ul style="list-style-type: none">・引き続き情報発信をしていくが、誤って個人情報が流出することのないように、十分注意して行う。・キャリアパスポートを作成することが目的ではなく、それを使って児童生徒の次のステージへ向かう意欲を高めていきたい。